

cp-8. 関数

(C プログラミング入門)

URL: <https://www.kkaneko.jp/pro/adp/index.html>

金子邦彦



内容

例題 1. 棒グラフ

関数とは. プログラム実行順. データの流れ.

引数と仮引数

例題 2. 月の日数

return 文

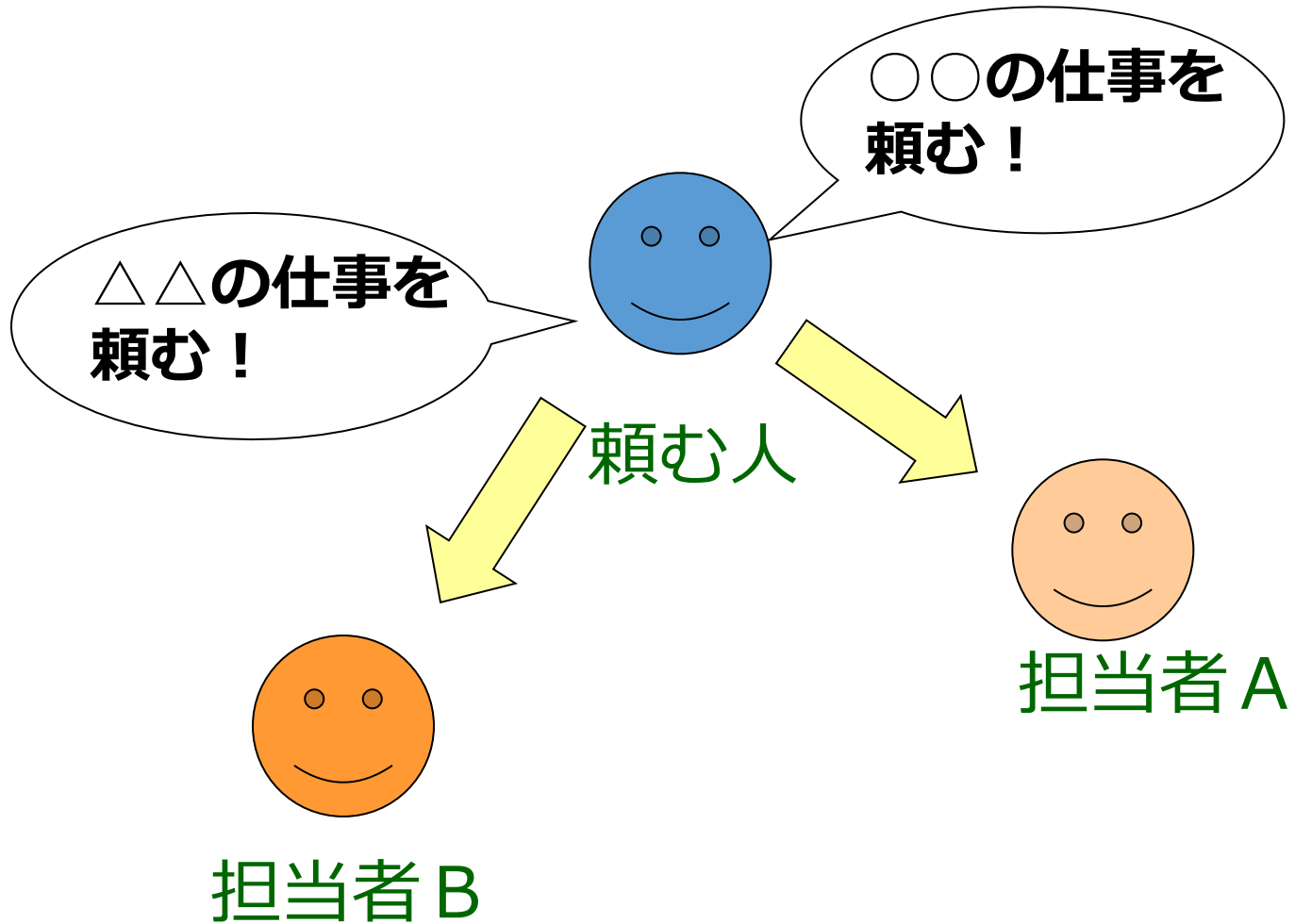
例題 3. 1 か月分のカレンダー

例題 4. 月初めの曜日

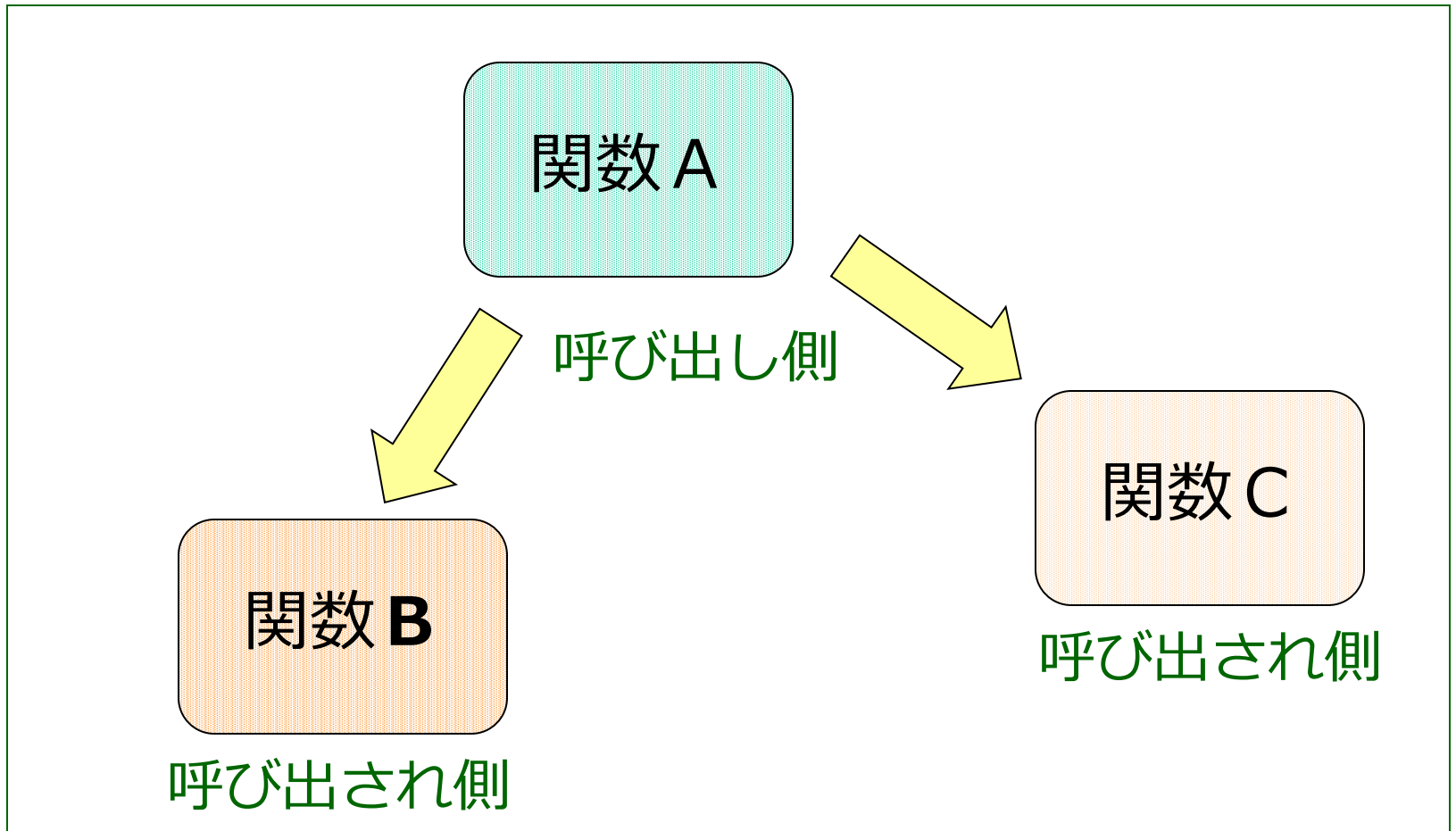
例題 5. カレンダー

関数の集まりとしてのプログラム

仕事の分割



関数とは



プログラムは、しばしば、複数の関数に「分割」される

- 1つの main 関数と，その他の複数の関数から構成されたプログラムを読んで，理解できる能力を習得する
- 複数の関数の間での「情報の受け渡し」について理解する

例題 1. 棒グラフ

- 整数から、その長さだけの棒を表示する関数を作る

例) 5 → *****

- 上記で作った関数を使って、「整数を読み込んで、読み込んだ長さの棒を表示するプログラム」を作る

棒グラフ



```
#include <stdio.h>
#pragma warning(disable:4996)
```

```
void bar( int len )
{
    int i;
    for (i=0; i<len; i++) {
        printf("*");
    }
    printf("¥n");
    return;
}
```

bar関数

```
int main()
{
    int len;
    printf( "len=" );
    scanf( "%d", &len );
    bar( len );
    return 0;
}
```

main関数

棒グラフ

実行結果の例

```
len=5
```

```
*****
```


関数呼び出しの流れ

main 関数

int main()

関数呼び出し

bar(len);

bar 関数

void bar(int len)

戻り

return;

プログラム実行順



```
#include <stdio.h>
#pragma warning(disable:4996)
```

```
void bar( int len )
{
    int i;
    for (i=0; i<len; i++) {
        printf("*");
    }
    printf("¥n");
    return; 戻り
}
```

bar関数

```
int main()
{
    int len;
    ① printf( "len=" );
    ② scanf( "%d", &len );
    ③ bar( len ); 関数呼び出し
    ⑦ return 0;
}
```

main関数

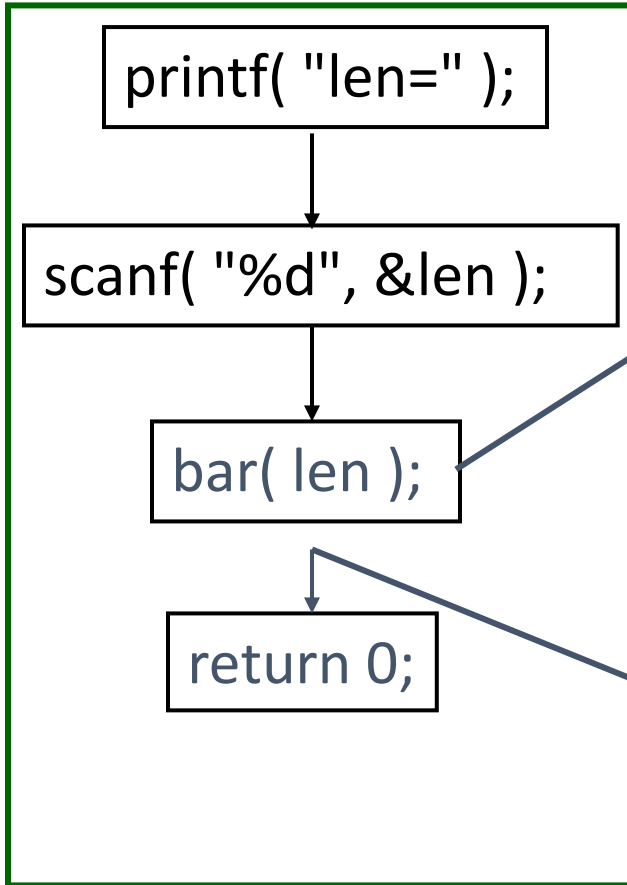
main 関数の先頭行
がプログラムの始まり

main 関数内の return
がプログラムの終わり

プログラム実行順

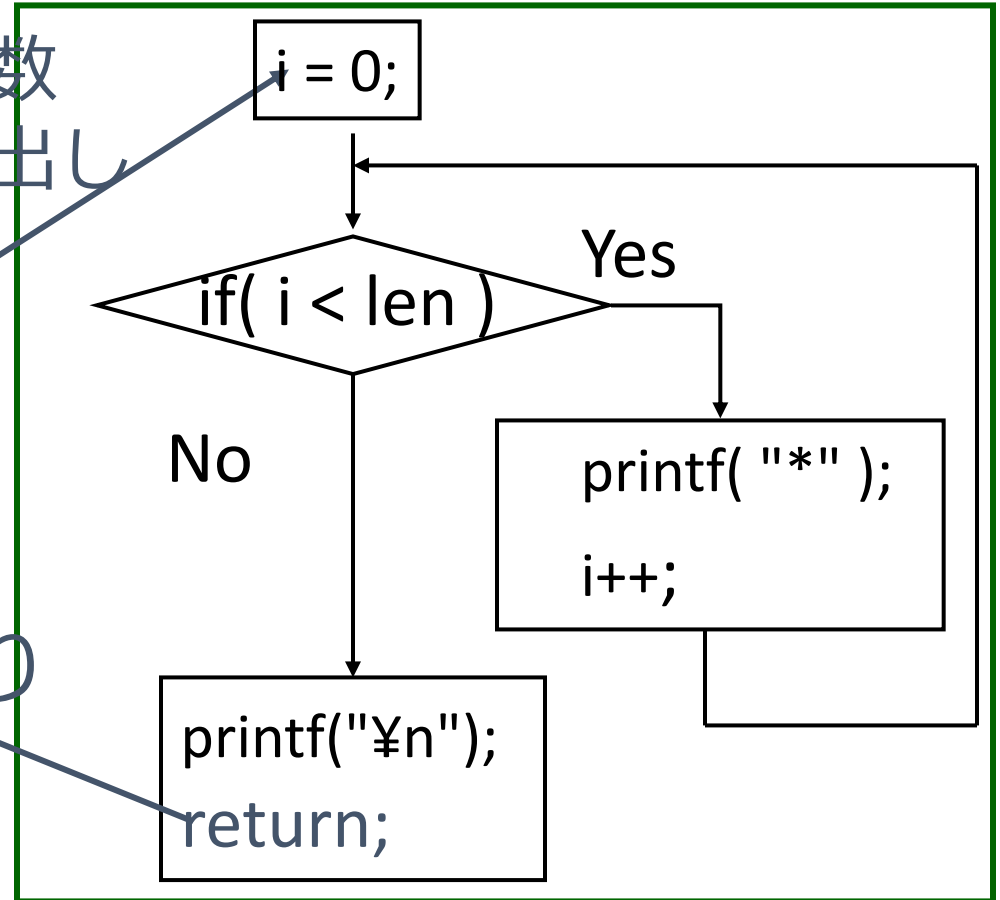
main 関数

int main()



bar 関数

void bar(int len)



関数
呼び出し

戻り

プログラム実行順

- 普通, プログラム中の文は逐次的に実行される
- 関数呼び出しでは, 関数の先頭に「ジャンプ」する.

関数呼び出しの例) `bar(len);`

- 関数の中で `return` 文に出会うと, 関数呼び出しの場所に戻る.

- プログラムの実行を開始すると、自動的にmain関数が呼ばれる
 - プログラムの開始は、main関数の最初の行から
 - main関数内のreturn文は、「プログラムの終わり」を示す
- プログラムには、必ずmain関数が書かれていなければならない

関数定義の例



```
#include <stdio.h>
#pragma warning(disable:4996)
```

```
void bar( int len )
```

型 名前 仮引数

```
    for (i=0; i<len; i++) {
        printf("*");
    }
    printf("¥n");
    return;
}
```

頭部

本体

bar関数

```
int main()
```

型 名前 仮引数 (は空)

```
    printf( "len=" );
    scanf( "%d", &len );
    bar( len );
    return 0;
}
```

頭部

本体

main関数

関数定義

- 関数定義とは、関数の実体をプログラムとして書くこと
- 関数には、名前、型、仮引数がある

例) `void bar(int len)`

`int main()`

型

名前

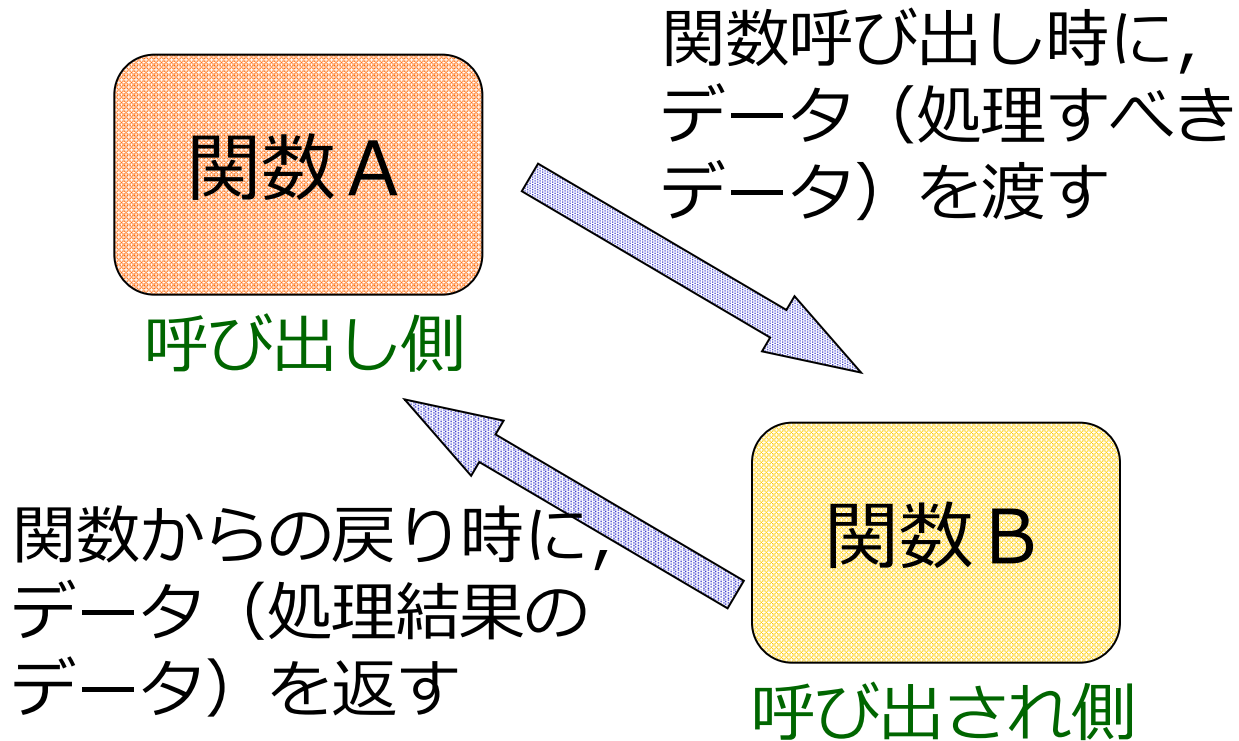
仮引数

関数側から呼び出し側に
返されるデータに関する

呼び出し側から関数側に
渡されるデータに関する

- 仮引数のそれぞれにも、型と名前がある

関数でのデータの流れ



データの流れ



main 関数

```
int main()
```

関数呼び出し

```
bar(len);
```

① len の値を,
bar 関数に渡す

bar 関数

```
void bar( int len )
```

型 仮引数

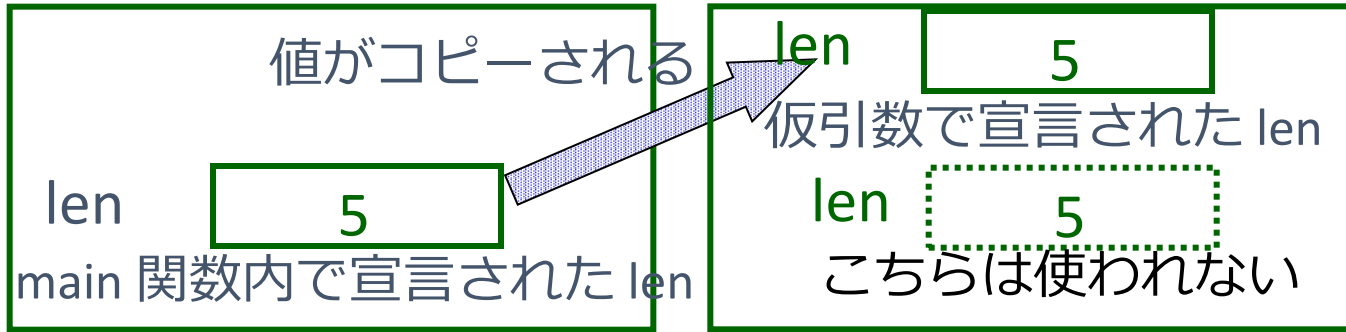
②整数を受け取って,
「len」という名前で使う

戻り

```
return;
```

③main 関数には,
何も返さない

データの流れ



main 関数

```
int main()
```

関数呼び出し

```
bar(len);
```

① len の値を,
bar 関数に渡す

main 関数内で宣言された len
と、仮引数で宣言された len は
別のもので

sum 関数

```
void bar( int len )  
型 仮引数
```

②整数を受け取って,
「len」という名前で使う

戻り

```
return;
```

③main 関数には,
何も返さない

引数と仮引数

- 関数呼び出し側

- カッコの中に書いた変数等の値（引数という）が、関数に渡される

(例) `bar(len);`

`len` の値を, `bar` 関数に渡す (引数)

- 呼び出された関数側

- 呼び出された関数は, 値を受け取って, 名前を付けて使用する (仮引数という)

(例) `int bar(int len)`

整数を受け取って, 「`len`」
という名前で使う (仮引数)

引数と仮引数

• 引数

- 関数などに実際に渡される「データ」のこと
- 関数呼出しの (,) 内に並べる
- 定数や変数や式を書く

• 仮引数 (パラメータともいう)

- 関数定義の (,) 中で宣言された変数のこと。
(例) `void bar(int len)` では, 変数 `len` が宣言されている。
- 関数は, 呼び出された時点において, 値を受け取り, 当該関数の仮引数である変数にセットする。

- 引数で与えられた値が, 仮引数の変数に代入されて情報の受け渡しが行われる。

例題 2. 月の日数

- 年と月から、日数を求める関数を作る
 - うるう年の2月ならば29
 - 求めた日数は、関数の返り値として、呼び出し側に返すこと.

例) 2001年11月 → 30

- 上記で作った関数を使って、「年と月を読み込んで、日数を求めるプログラム」を作る

```
#include <stdio.h>
#pragma warning(disable:4996)
int num_of_day( int y, int m)
{
    int num_days[] = {31, 28, 31, 30, 31, 30, 31, 31, 30, 31, 30, 31};
    if ( (m == 2) && (((y % 400) == 0) || (((y % 100) != 0) && ((y % 4) == 0)))){
        return 29;
    }
    else {
        return num_days[m-1];
    }
}
```

```
int main()
{
    int y;
    int m;
    int n;
    printf( "y=" );
    scanf( "%d", &y );
    printf( "m=" );
    scanf( "%d", &m );
    n = num_of_day(y, m);
    printf( "number of days(%d) = %d\n", m, n );
    return 0;
}
```

月の日数

実行結果の例

y=2001

m=11

number of days(11) = 30

関数呼び出しの流れ

main 関数

int main()

関数呼び出し

n = num_of_day(y, m);

num_of_day 関数

int num_of_day(int y, int m)

戻り

return 29;

} うるう年のとき

return num_days[m-1];

} うるう年
でないとき


```
#include <stdio.h>
#pragma warning(disable:4996)
int num_of_day( int y, int m)
{
    int num_days[] = {31, 28, 31, 30, 31, 30, 31, 31, 30, 31, 30, 31};
    ⑤ if ( ( m == 2 ) && (((y % 400) == 0) || (((y % 100) != 0) && ((y % 4) == 0)))){
    ⑥     return 29;
    }
    else {
    ⑥     return num_days[m-1];
    }
}

int main()
{
    int y;
    int m;
    int n;
    ① printf( "y=" );
    ② scanf( "%d", &y );
    ③ printf( "m=" );
    ④ scanf( "%d", &m );
    ⑦ n = num_of_day(y, m);
    ⑧ printf( "number of days(%d) = %d¥n", m, n );
    ⑨ return 0;
}
```

プログラム実行順

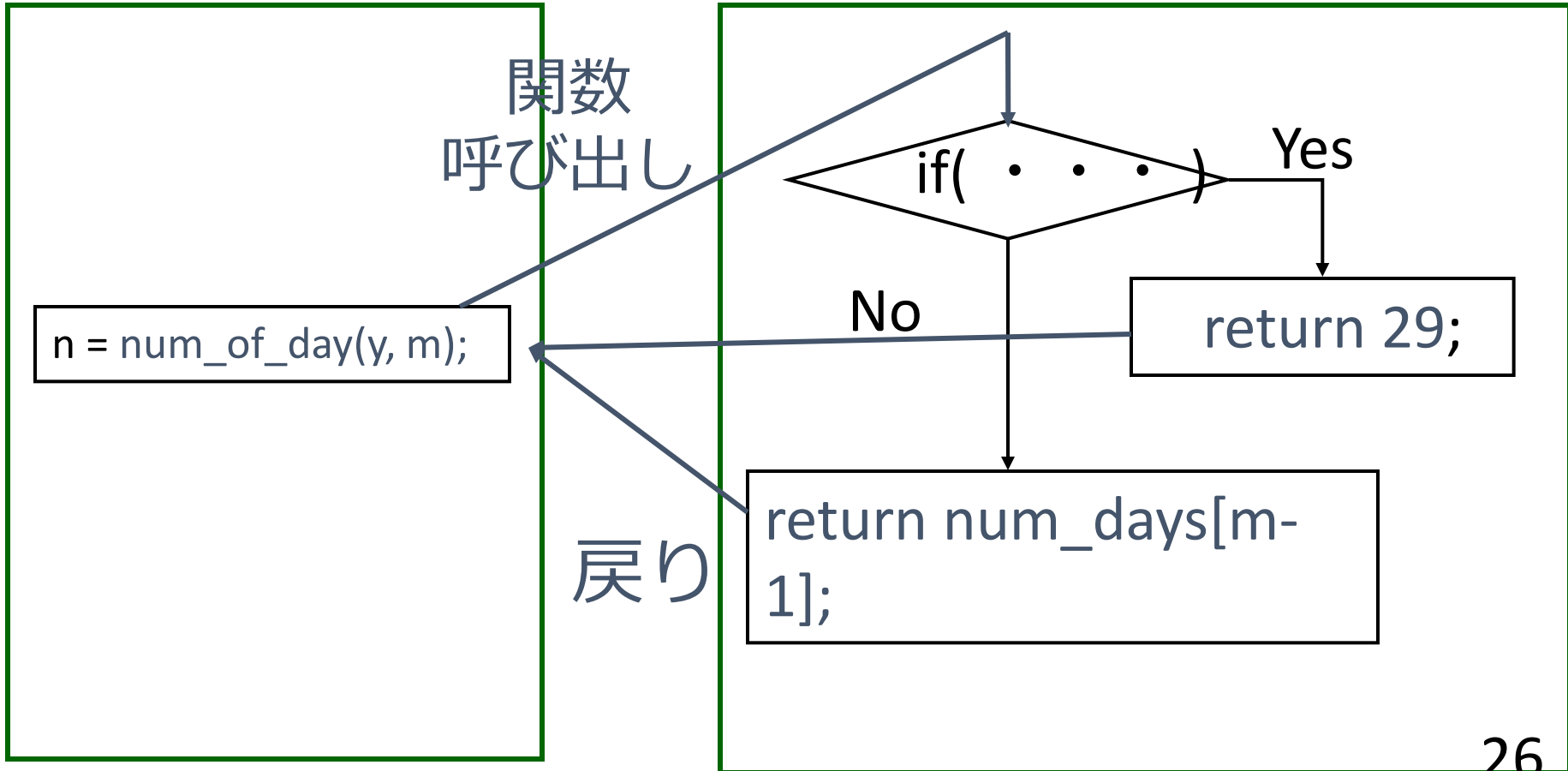


main 関数

int main()

num_of_day 関数

int num_of_day(int y, int m)



データの流れ



main 関数

```
int main()
```

関数呼び出し

```
n = num_of_day(y, m);
```

① y と m の値を,
num_of_day 関数に渡す

num_of_day 関数

```
int num_of_day( int y, int m )
```

型 仮引数

② 整数を 2 つを受け取って,
「y」と「m」という名前で使う

戻り

```
return 29;
```

うるう年のとき

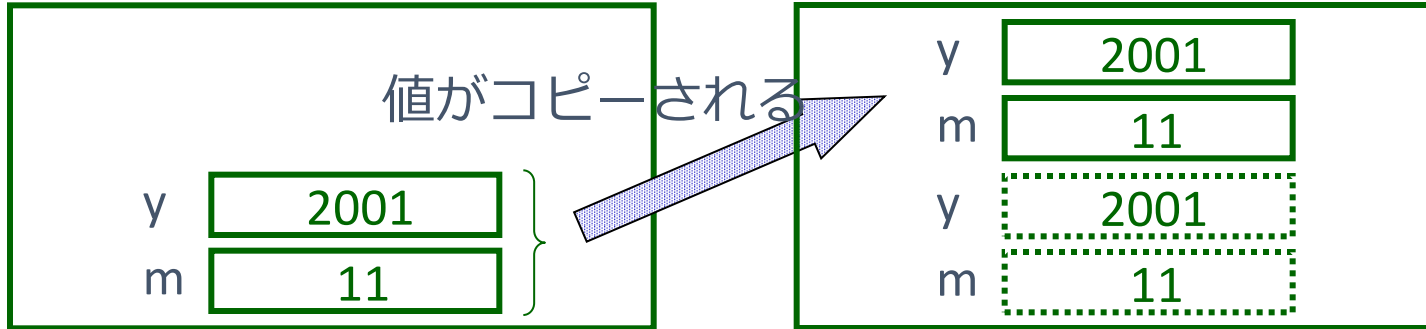
③ main 関数に, 29 を返す

```
return num_days[m-1];
```

うるう年
でないとき

③ main 関数に, num_days[m-1]
の値を返す

データの流れ



main 関数

int main()

関数呼び出し

```
n = num_of_day(y, m);
```

① y と m の値を,
num_of_day 関数に渡す

num_of_day 関数

```
int num_of_day( int y, int m )
```

型

仮引数

②整数を2つを受け取って,
「y」と「m」という名前で使う

戻り

```
return 29;
```

うるう年のとき

③main 関数に, 29 を返す

```
return num_days[m-1];
```

うるう年
でないとき

③main 関数に, num_days[m-1]
の値を返す

関数の中の return 文



- 関数の呼び出しの場所に戻ること示す
- return 文で書いた式の値が、呼び出し側に返される
(例) `return;` ← 何も返さない
`return 29;` ← 29 を返す
`return num_days[m-1];` ← `num_days[m-1]` を返す

void の意味

- 関数には、型がある
 - int
 - double
 - void など
 - 但し、void は、「関数が return 文で、何も返さないこと（値を返さない関数）」を示す
- 例) `void print_calendar(int num_days, int youbi)`
- void で関数定義したら、return の次に式を書かない（「`return;`」）。

関数から返された値の使い方

```
n = num_of_day(y, m);
```

関数呼び出し

num_of_day 関数から返された値が n に入る

- 関数は、一種の「式」であって、「値」を持つ
 - この「値」が、関数から返された値

例題 3 . 1 か月分のカレンダー

- 日数と曜日から, 1 か月分のカレンダーを表示する関数を作る
 - 日数は, 28, 29, 30, 31 のいずれか
 - 曜日は, 0, 1, ..., 6 のいずれか
 - 表示される日付は, 2桁の幅とし, それぞれの間に1つの空白を置くこと.


```
#include <stdio.h>
#pragma warning(disable:4996)
```



```
void print_calendar( int num_days, int youbi )
```

```
{
    int i;
    int d;
    int x;
    if ( ( num_days < 28 ) || ( num_days > 31 ) || ( youbi < 0 ) || ( youbi > 6 ) )
    {
        return;
    }
    for ( i = 0; i < ( youbi * 3 ); i++ ) {
        printf( "  " );
    }
    d = 1;
    x = youbi;
    do {
        printf( "%2d ", d );
        d++;
        if ( x == 6 ) {
            printf( "¥n" );
            x = 0;
        }
        else {
            x++;
        }
    } while ( d <= num_days );
    return;
}
```

渡された値がおかしいときは、何もせずに終わる

曜日の分だけ空白を表示

日付を書く

土曜日に来たら改行する

月末まで書いたら終わる

前のページからの続き



```
int main()
{
    int num_days;
    int youbi;
    printf( "num_days=" );
    scanf( "%d", &num_days );
    printf( "youbi=" );
    scanf( "%d", &youbi );
    print_calendar( num_days, youbi );
    return 0;
}
```

1 か月分のカレンダー

実行結果の例

```
num_days=30
```

```
youbi=4
```

```
1 2 3
```

```
4 5 6 7 8 9 10
```

```
11 12 13 14 15 16 17
```

```
18 19 20 21 22 23 24
```

```
25 26 27 28 29 30
```

関数呼び出しの流れ

main 関数

```
int main()
```

関数呼び出し

```
print_calendar(num_days,  
youbi);
```

num_of_day 関数

```
void print_calendar( int num_days, int youbi )
```

戻り

```
return;
```

```
return;
```

} 渡された値が
おかしいとき

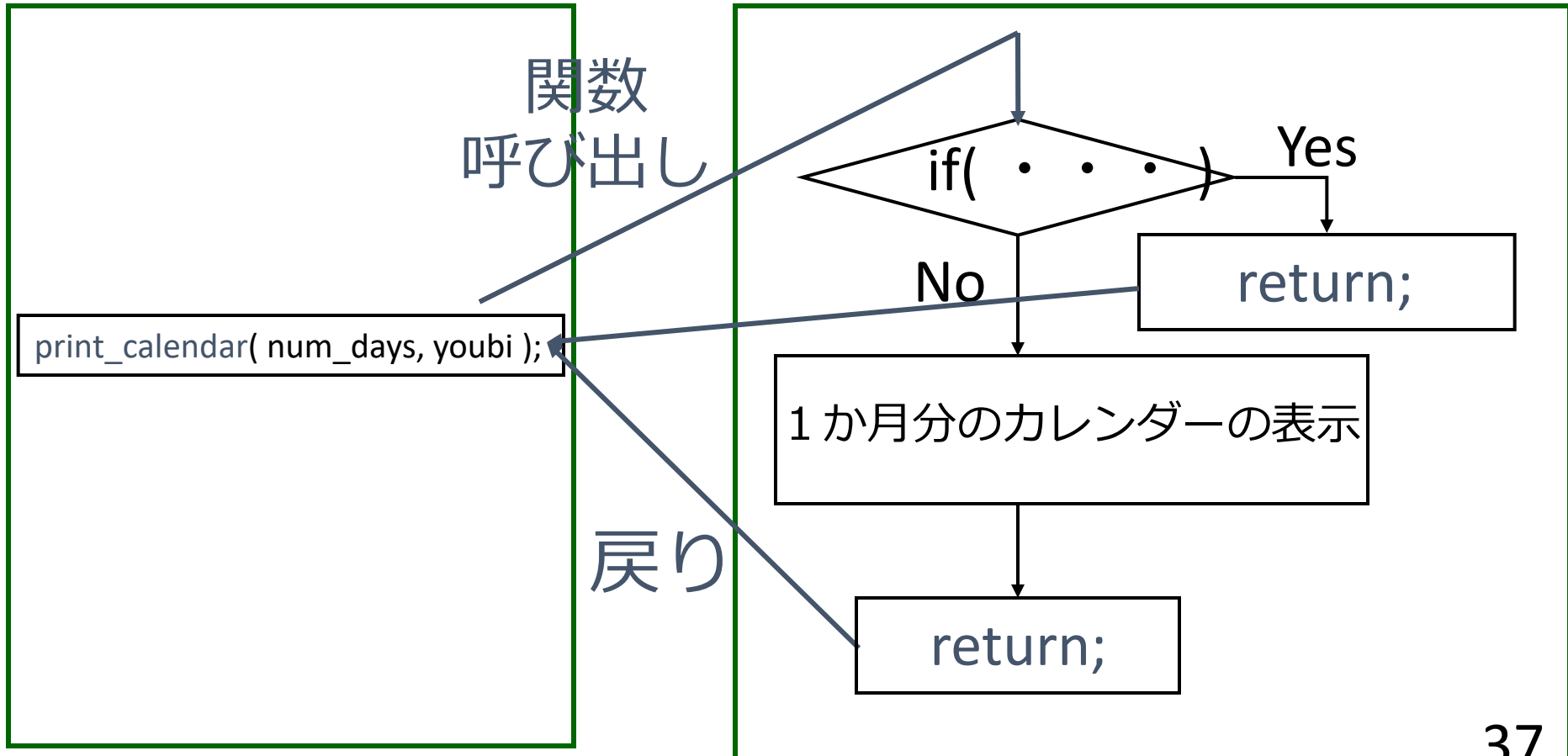
プログラム実行順

main 関数

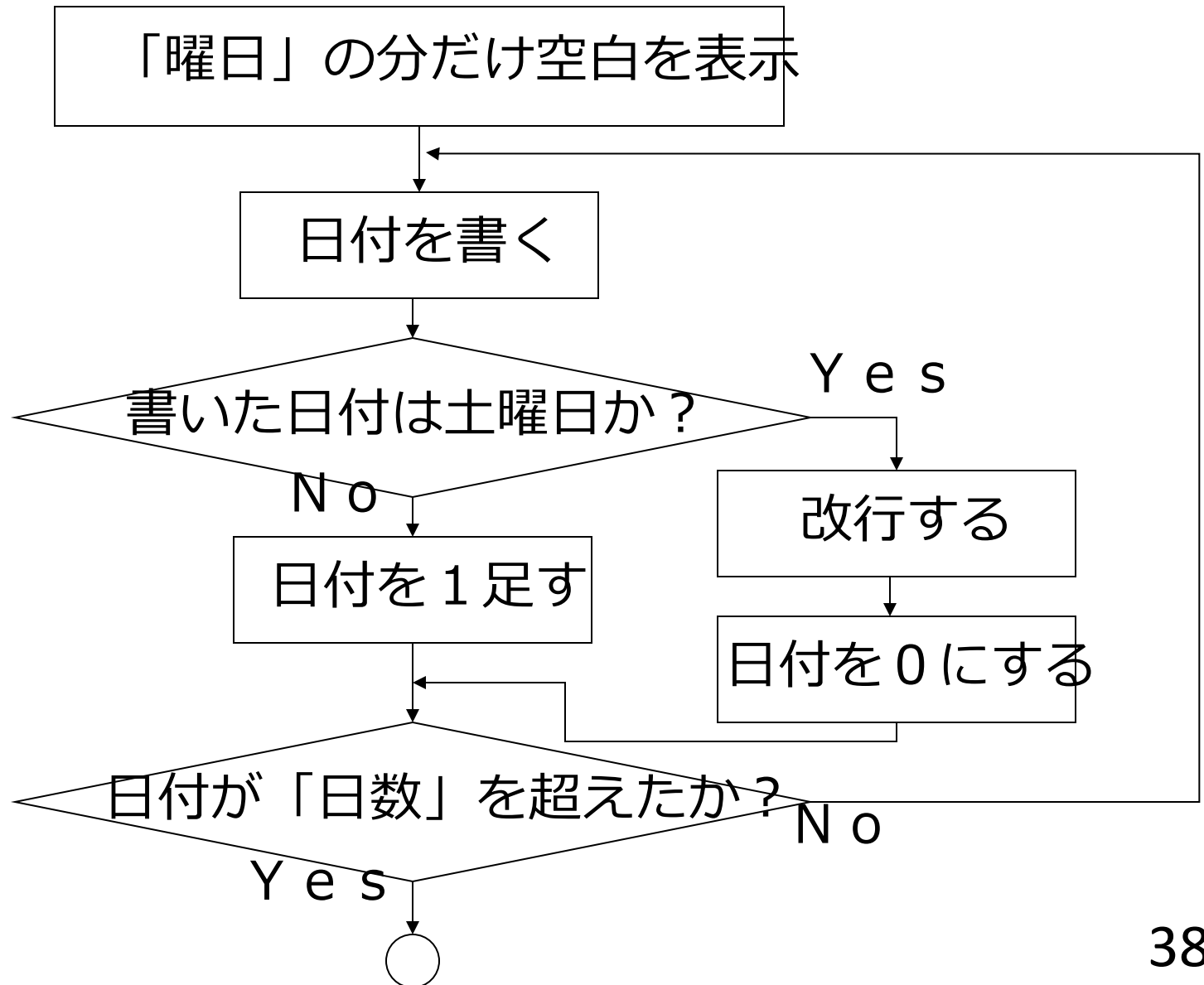
```
int main()
```

print_calendar 関数

```
void print_calendar( int num_days, int youbi )
```



1か月分のカレンダーの表示



例題 4 . 月初めの曜日

- ツエラーの公式を使い, 年と月から, 月初めの曜日を求める関数を作る
 - 曜日は, 0, 1, ..., 6 のいずれか
 - 0 : 日曜日
 - 1 : 月曜日
 - 2 : 火曜日
 - 3 : 水曜日
 - 4 : 木曜日
 - 5 : 金曜日
 - 6 : 土曜日

月初めの曜日



```
#include <stdio.h>
#pragma warning(disable:4996)
```

```
int zeller( int y, int m, int d )
{
    if ( ( m == 1 ) || ( m == 2 ) ) {
        y = y - 1;
        m = m + 12;
    }
    return ( y + (y/4) - (y/100) + (y/400) + ((13 * m + 8) / 5) + d ) % 7;
}
```

```
int first_day( int y, int m )
{
    return zeller( y, m, 1 );
}
```

```
int main()
{
    int y;
    int m;
    int f;
    printf( "y=" );
    scanf( "%d", &y );
    printf( "m=" );
    scanf( "%d", &m );
    f = first_day(y, m);
    printf( "first days(%d, %d) = %d\n", y, m, f);
    return 0;
}
```

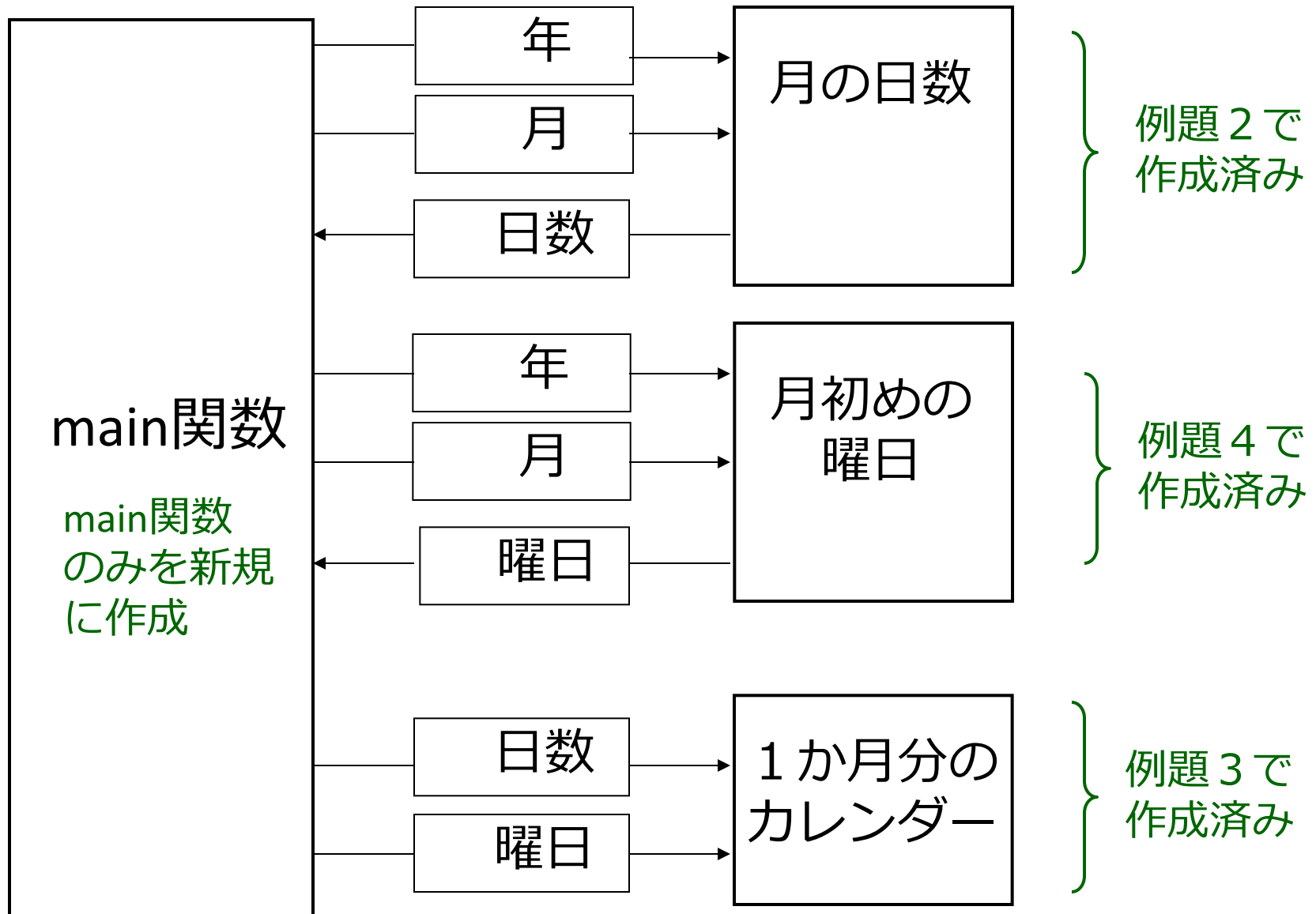

例題 5. カレンダー

- 年と月から、カレンダーを表示するプログラムを作る

「カレンダー」のプログラムの関数分割

- 役割ごとに，関数を作る.
 1. 本体
 2. 月の日数
 3. 月初めの曜日
 4. 1ヶ月分のカレンダー

カレンダー



コメントでおおまかな処理を書く

```
int main()
{
    /* 年と月を読み込む */
    /* 年と月から「月の日数」を求める */
    /* 年と月から「月初めの曜日」を求める */
    /* 「月の日数」と「月初めの曜日」からカレンダーを表示す
    る */
    return 0;
}
```

コメント

- コメントは、プログラムの中に書く注釈のこと。
- プログラムの説明や使用上の注意などを書く。
- コメントは、プログラム実行では無視される。
- コメントの始まりは `/*` で、終わりは `*/` である。あるいは `//` を使って、1行分のコメントを書くこともある。コメントは、入れ子にすることができない。
- 次のコメントは入れ子になっていて、間違いである。

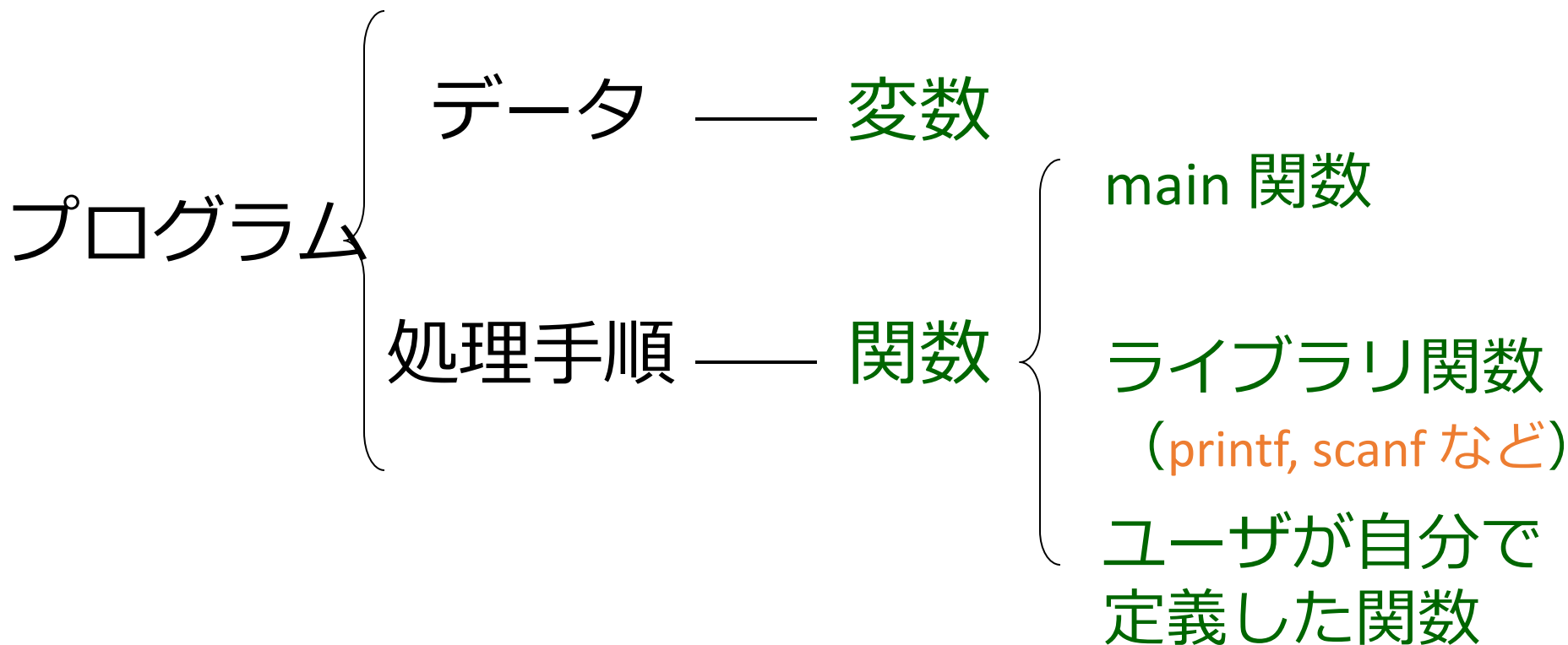
`/* n = n + 1; /* n は「空き領域」の先頭を指す */ */`



カレンダー #pragma warning(disable:4996)

```
int main()
{
    int y;
    int m;
    int nissu;
    int youbi1;
    /* 年と月を読み込む */
    printf( "y=" );
    scanf( "%d", &y );
    printf( "m=" );
    scanf( "%d", &m );
    printf( "日 月 火 水 木 金 土¥n" );
    /* 年と月から「月の日数」を求める */
    nissu = num_of_day(y, m);
    /*年と月から「月初めの曜日」を求める */
    youbi1 = first_day(y, m);
    /* 「月の日数」と「月初めの曜日」からカレンダーを表示する */
    print_calendar( nissu, youbi1 );
    return 0;
}
```

－関数と変数－



関数の種類

- **main関数**

- プログラムは, main 関数を必ず含む

- **ライブラリ関数**

- システムに既に組み込まれた関数

- **ユーザが定義した関数**

- プログラマが独自の関数を定義可能